

養父市国家戦略特区シンポジウム



■養父市の取り組み■ 豊かな農山村社会の実現に向けて 情報通信・先進技術の活用

これまで「企業による農地取得の特例」「農業生産法人の要件緩和」など農業分野で五つの特例を設けた。企業が農業に参入し農地の活用も進んでいる。今年7月には農用地区域に「農家レストラン設置に係る特例」を活用して新しく農家レストランがオープンし、とても繁盛している。現在は情報技術を活用したスマート農業の取り組みも進んでいるところだ。無線遠隔草刈り機、農業肥料散布用のドローン導入などにより重労働を自動化、省力化し若者を呼び込める農業に変えていきたい。また、キャッシュレス、クルマの

養父市長 広瀬 栄氏

10年後の未来社会先取り



自動走行など2030年頃「パーシティブ構想」に向け実現される未来社会の動きを先取りし「養父市型」をつく。

■養父市が実現した規制改革メニュー

中山間農業改革に向けて

- ① 農業委員会と市の事務分担
- ② 農業生産法人の要件緩和
- ③ 企業による農地取得の特例
- ④ 農業への信用保証制度の適用
- ⑤ 農家レストラン設置に係る特例

多岐にわたって

- ⑥ 旅館業法施行規則の要件緩和
- ⑦ 高齢者等の雇用の安定等に関する法律の特例
- ⑧ テレビ電話による服薬指導の特例
- ⑨ 過疎地域等での家用自動車の活用拡大

さまざまな分野での情報通信・先端技術の活用

地域の「文化・環境」活用を

2014年5月、規制緩和を実験的に推し進める国家戦略特区の第1次指定を国から受けた養父市。以来、中山間地域における課題解決に向け、特に「従来のままの農業では持続できない」との思いから農業改革に主眼を置き規制緩和を進めてきた。また、テレビ電話による遠隔服薬指導、家用車の活用拡大による観光客の短距離輸送の仕組みづくりなどにも取り組み、全国で指定を受けた10区域の中でも最も活動的との評価も得ている。養父市国家戦略特区シンポジウムがこのほど養父市内で開かれ、これまでの取り組みと成果、そして課題について報告、討論がなされた。



慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授 岸博幸氏

岸博幸氏 1962年東京出身。86年一橋大卒、通商産業省(当時)入省。小泉政権での経済財政政策担当大臣などの秘書官として不良債権処理や郵政民営化などを推進。現在は経済評論家として、テレビのコメンテーターを務める。

衰退産業で成長

地方自治体における地方創生の取り組みは多くで苦戦が予想される。なぜなら人口減少を食い止めることを目標としているからだ。人口の増減はその地域の経済が元気に動かしているから。まず、しなければならぬことは地域経済を元気にすることだ。

国の地方創生関連予算を獲得できたとしても地域が元気になる効果は一過性で終わる。それよりも地域経済の生産性、潜在成長率を上げていかなければならない。つまり、同じ時間働く10088年のピークから現在まで私に関わっている音楽産業は1988年のピークから現在まで

■特別講演■ 地域経済の活性化と国家戦略特区

イノベーションを連続的に

で市場が半減以下に縮小した。ただその中で一部のアーティスト、会社は逆に売り上げを伸ばした。例えばAKB48はCDに「総選挙」の投票券、握手券などの特典を付けた。つまりCDとおまけという新しい組み合わせだ。また本拠地の劇場をオタクの聖地である秋葉原に置いた。お金のない若者世代で唯一自分の好きなことにお金を使ってもらえるオタクを引っ張り込むことに成功したのだ。これも音楽ビジネスとオタクの新たな組み合わせだ。この組み合わせを生み出したのは中小企業だ。衰退産業の中でも中小企業であってもイノベーションを生み出せば成長できるのだ。

欧州の成功事例

地域の再生をしようとする中で参考となるのはヨーロッパの大都市での成功例。活性化に成功しているところでは共通して行っていることは地元文化と環境を再生することだ。長い歴史を持つ地域で、ほかの地域が持つていない自身の地域の強みはやはり歴史や環境だ。それをきちんと評価し、人が来たら住みたいと思ってもらうを作っている。

民間の力が鍵

養父市は恵まれている。国家戦略特区制度を活用して、個人、若者、企業が農業をやりたい仕組みを作ったからだ。農業は文化と環境に関わる産業であり地域のアイデンティティーそのものだ。例えば厚食に特産の朝倉山椒を食べたがサンショウのポテンシャルはとても高い。今



養父市国家戦略特区の取り組みと成果課題について意見が交わされたシンポジウム。養父市立六鹿文化会館ホール

ただ伝統文化をそのまま残すだけでは新しい雇用も生まれにくい産業にもならない。私が5年以上地域振興に関わっている福井県鯖江市は眼鏡製造で知られているが、これに続く産業を育てようという文化だった。漆に着目し、東京の若手デザイナーと連携し3Dプリンターなどを活用してコーヒータンブラーを作った。タンブラーは1万円するにもかかわらず売れた。伝統文化とデザイン・デジタルの新しい組み合わせだ。日本には素晴らしい技術を持つ伝統文化があり、その技術を活用して現代のマーケットに通用する製品を作れば産業になる。また商品をつかずに漆の産地であることが知られ、体験観光にも結び付いていった。

薬受け取りまで自宅で

医師の診察についてはテレビ電話による実施が認められているが薬剤師による服薬指導、薬の受け取りについては認められていない。2018年以降、養父市を含む全国三つの特区で規制緩和が認められ、スマートフォンやタブレットを使い、自宅にいながらにしてこれらができるようになった。例えば生活習慣病など慢性的な疾患はあるものの病状が安定している人、長距離の移動を負担に感じている人、忙しい現役世代で通院できない人などが利用対象となる。スマホやタブレットを持つていない人は市役所を通じて貸し



株式会社 阪神調剤薬局八鹿店 管理薬剤師 川瀬 章氏



在宅の患者にネット経由で服薬指導する薬剤師

■事例発表1■ オンライン服薬指導 あなたの自宅が診察室に

出しの相談も可能だ。現在テレビ電話による実施が認められているが薬剤師による服薬指導、薬の受け取りについては認められていない。2018年以降、養父市を含む全国三つの特区で規制緩和が認められ、スマートフォンやタブレットを使い、自宅にいながらにしてこれらができるようになった。例えば生活習慣病など慢性的な疾患はあるものの病状が安定している人、長距離の移動を負担に感じている人、忙しい現役世代で通院できない人などが利用対象となる。スマホやタブレットを持つていない人は市役所を通じて貸し

利用急増 観光を後押し



NPO法人養父市マイカー運送ネットワーク 理事長 小柴 勝彦氏

持続可能な移動手段の仕組みを作ってほしいという養父市からの依頼を受け、家用車を使ったタクシ事業「やぶくる」が2018年5月、16人のドライバー体制でスタートした。今年の利用者は昨年の2倍を超える勢いだ。安全を担保するため、遠隔でドライバーと呼ぶ、アルコールチェックや健康状態の確認などを徹底している。今後はやぶくるを活用した観光ルートへの提案など観光客を呼び込むための仕掛けも考えていきたい。今後人口減少が進むと公共交通のドライバー減少が助けにくくまらにしていきたい。



市民が支え合う「やぶくる」タクシ「やぶくる」観光への活用も

■事例発表2■ 家用自動車の活用拡大 あなたのそばに「やぶくる」

モテレーター 国家戦略特区ワーキンググループ委員、養父市特区推進共同事務局長 秋山咲恵氏

「外からの視点」生かす

ミニ鼎談＝写真＝では岸氏が「観光の目的の一つは食。朝倉山椒はそれを求めてわざわざやってくるだけの価値を持っている」と太鼓判を押した。秋山咲恵氏は「急斜面のあぜ道でも走行できる無線遠隔草刈り機の映像は、言葉で説明するよりも中山間地でも農業ができるというメッセージが伝わる強烈なインパクトを持っている」と述べた上で「外から来た人が新鮮な目で見て、はっと思うようなことを磨き上げ、発信していくことが大事」と外の視点の大切さを説いた。また、広瀬市長は「人口が少ない中山間地だからこそ進められる生活の自動化が幸せな暮らしにつながる地方創生が完成する」との言葉を述べ、岸氏は「里山は原風景。農業を活性化しながら本当の原風景を再生することが人を呼び込むことにもつながる」と述べた。「規制緩和は敵もつくる。でも市長の熱量があれば結果は出る」と秋山氏。広瀬市長は「特区で扉はこじ開けるが、活用するのは市民、企業の皆さん。ぜひ関わってほしい」と呼びかけた。



景を再生することが人を呼び込むことにもつながる」と述べた。「規制緩和は敵もつくる。でも市長の熱量があれば結果は出る」と秋山氏。広瀬市長は「特区で扉はこじ開けるが、活用するのは市民、企業の皆さん。ぜひ関わってほしい」と呼びかけた。